

農場通信 2025年 5月号

2025/4/28

トヨタネ研究農場の「今」をお知らせ！ 圃場の写真と、環境データ・管理方法も合わせてご覧ください！


① 圃場 ハウス ② 試験内容


③ 開始日 ④ 終了予定

① 第4 A ② ココバッグ栽培展示 バッグ比較試験 ③ 2024/9/9 ④ 2025/7月末

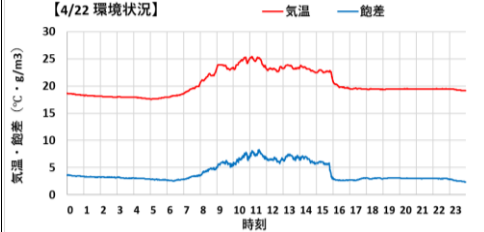
品目	圃場写真①	圃場写真②
<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="background-color: #90EE90; width: 15px; height: 15px; display: inline-block;"></div> 栽培中</div> <div style="background-color: #D3D3D3; width: 15px; height: 15px; display: inline-block;"></div> 栽培準備中		

大玉トマト






【4/22 環境状況】




ココバッグ栽培の展示ハウスになります。通常タイプのココバッグと、ココバッグ「ミニ」の比較試験を行います。品種は桃太郎ホープ(台木:アシスト) 9/9定植。夜間に暖房が稼働することも無くなったので、サイド換気は、昼夜とも常時開けたままにして、ハウス内が加湿にならないように注意します。晴天日・曇天日の環境変化が激しい時期なので、給液管理と遮光管理に細心の注意が必要です。給液は日射比例灌水としていますが、冬季と違い曇天日でも排水が多少出るような設定に変更しています。

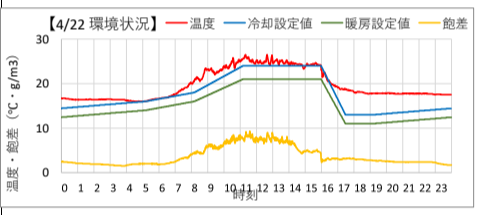
① 第4 B ② ミニトマト品種比較試験 ③ 2024/7/29 ④ 2025/6月

ミニトマト






【4/22 環境状況】




ミニトマト20品種の比較試験を行っています。日中24℃前後、夜間12℃前後で株あたり2000ml、給液ECは2.0で灌水管理。
一部の品種で裂果や裂皮が増えてきました。ハウス内の気温が高くなりやすいため、換気の仕方考えながらハウス内を冷やしていきます。うどん粉病やコナジラミが増えてきたので、消毒を行いました。

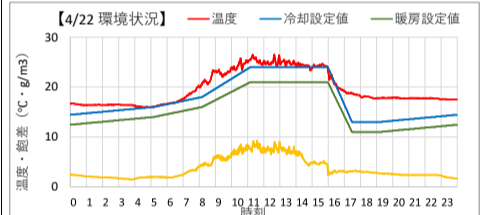
① 第4 C ② 大玉トマト品種比較試験 ③ 2024/7/29 ④ 2025/6月

大玉トマト





【4/22 環境状況】



大玉トマト20品種栽培中です。5月中旬に摘芯予定です。草勢が低下している品種があったため、日中温度を23℃、夜間11℃で管理をおこなっています。また、葉面散布材を施用しました。
バコトップの放飼により、コナジラミが少ない状態ですが、確認できたため、気門封鎖剤やベネビアODを使用しました。

① 第4 D ② アールスメロン品種比較試験 ③ 2024/5月上旬 ④ 2025/8月

アールスメロン







5月上旬、定植を行う予定です。今回は、番号品種も含めて18品種の栽培予定です。

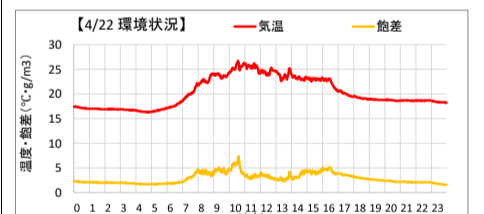
① 第4 E ② イチゴ栽培試験 ③ 2024/7/23 ④ 2025/6月

イチゴ






【4/22 環境状況】




株あたり300cc給液、給液EC0.6で管理。ハウス内が暑くならないように、換気や遮光を実施。摘果、摘花は果房あたり7果になるようにしています。果実が柔らかくなるのが早くなってきたため、色周りを気にしながら収穫を行っています。葉が茂り始め、ランナーも伸びて来たため葉かきとランナー取りをこまめに行っています。ハダニが一部の葉で発生しているのを発見したため増加しないように消毒を行いました。

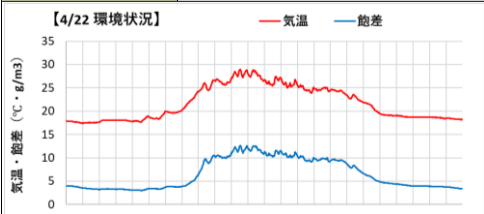
① 第4 J ② ココバッグ養液栽培試験品種比較試験 ③ 2024/10/2 ④ 2025/4月末

キュウリ






【4/22 環境状況】




今作はココバッグを使った養液栽培に適する品種比較試験ということで、穂木品種8種類・台木品種4種類を栽培します。年2作型とし、1作目は10月定植、4月15日で終了。2作目を4月21日に定植しました。
活着まではなるべく遮光を行い、ハウス内が高温になりすぎないように注意します。7節程度で摘芯して子ツル4本仕立てとします。1作目の収量と合わせて、年間で反収換算50トン達成するのが今作の目標となります。5/29に見学会イベントを計画していますのでぜひお越しください！

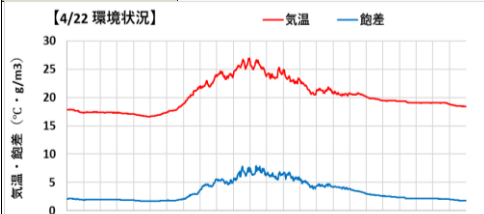
① 第4 I ② 高糖度ミニトマト品種比較試験 ③ 2024/8/30 ④ 2025/7/1

高糖度ミニトマト





【4/22 環境状況】



ミニトマトの高糖度栽培での品種比較試験を行います。培地はココバッグ、肥料はオリジナルの高糖度用単肥処方を使用します。
冬季は給液ECを5.0程度まで上げてストレスをかけたが、現在は3.0程度まで下げています。給液は日射比例灌水で、ギリギリ排水が出るくらいの量でコントロールしています。糖度は品種によりですが8.0~10.0程度で推移しており、収量もそれなりに出ている状況です。まだ樹勢は良い状態なので今後どこまで維持できるか楽しみです。





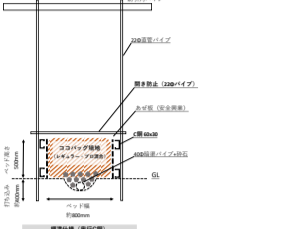
豊かさ実る、タネを。
トヨタネ株式会社

研究農場 TEL (0532) 41-2007
愛知県豊橋市東高田町371 FAX(0532)41-2015
URL <https://www.toyotane.co.jp/>
E-mail info@toyotane.co.jp



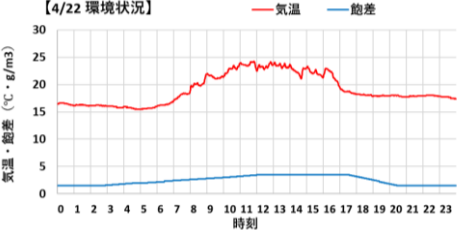
① 第6 ② キャベツ品種比較試験 ③ 2024/8月~ ④ 2024/11月~

キャベツ	 
<p>【作型一覧】 冬系1作目 7月26日播種 8月18日定植 冬系2作目 8月1日播種 8月27日定植 冬系3作目 8月8日播種 9月6日定植 冬系4作目 8月20日播種 9月14日定植 冬系5作目 8月23日播種 9月17日定植 春系1作目 8月23日播種 9月17日定植</p>	<p>全作型の調査は収量し、冬系5作目を在圃調査用に残すのみです。</p> <p>3月からの気温と降水で、2月まで遅れ気味だったものが一気に仕上がりました。4月後半に仕上がりの品種もいくつかありますので、最終の状況まで確認してから片付けとなります。</p> <p>今作は特に前半の作型で高温による生育不良に悩まされました。この反省を生かして、次作は対策をしたいと考えています。</p>

① 第3 M ② アスパラガス柵板式高畝栽培試験 ③ 2023/6/2 ④ 周年

アスパラガス	 
	<p>アスパラの「柵板式高畝栽培」の実証試験。2023年初夏に定植、2024年春から収穫開始。柵板で隔離したベッドにココバグの中身を入れて養液栽培をします。品種も新しいタイプ3種類を含む、計6種類栽培しています。</p> <p>2年目の収穫が2月中旬から始まっています。収穫初年度と比較すると、品種による収量差はあまり見られませんが、4月までの収量は大幅に増加していますので今後が楽しみです。</p>



① 第8 ② 『持続可能な施設園芸』実証試験 ③ 2024/9/2 ④ 2025/7月末

大玉トマト	 
<p>【4/22 環境状況】</p> 	<p>サステナブル・グリーンハウス『持続可能な施設園芸』実証試験と題して、減農薬・肥料削減・脱炭素を目標とした各種取り組みを行います。</p> <p>減農薬⇒天敵・防虫ネット・捕虫シート等々を組み合わせたIPM 肥料削減⇒排液リサイクルシステムを使った栽培実証 脱炭素⇒暖房の排ガスからCO2を分離して再利用</p> <p>定植は9/2に行いました。品種は「かれん」になります。CO2は暖房排ガスから回収した分で400ppm程度を維持、コナジラミはほとんど見かけない状況で、順調です。給液の30%を排液リサイクルでまかなっていますが、EC/pHの大きな崩れは見られず、収量もかなり多い状態が維持できています。</p>


① 第2 ② 露地品目 ③ 2024/09~ ④ 2025/夏

ブロッコリー	 
	<p>バイカラーコーン、初夏キャベツ、春ブロッコリーの栽培を行っています。</p> <p>初夏キャベツについては、5月下旬ごろの収穫を行っています。イモムシにより一部食害を受けているので、BT剤や化学農薬により防除を進めています。</p>

① 第2・第6 ② スイートコーン品種比較試験 ③ 2024/8月~ ④ 2024/11月~

スイートコーン	 
<p>【作型一覧】 イエロー品種 1作目(早中生) 3/15播種 イエロー品種 2作目(中晩生) 4/17播種 バイカラー品種 4/4播種</p>	<p>イエロー2作型 バイカラー1作型 (詳細は左記のとおり)</p> <p>一番早く播種した1作目は、4/24現在で本葉7-8枚となり概ね生育順調です。2作目は発芽確認し本葉2枚くらい、バイカラーは本葉4枚くらいです。</p> <p>初期生育時に水分や肥料が不足すると後半に大きく影響しますので、適宜灌水チューブによる灌水や早めの追肥に気を付けます。</p>

① 施設栽培 ② バコトツプ放飼防除試験 ③ 2025/07~

バコトツプ	 
	<p>研究農場では、2024年度トマト・キュウリ栽培ハウスにて、バコトツプの放飼試験を行っています。キュウリではアザミウマ類を対象に、トマトではコナジラミ類を対象にしています。</p> <p>キュウリハウスでは、4月15日までの栽培でアザミウマ類の発生はほぼ見られておりません。トマトハウスでは、コナジラミ数自体は、抑えられてはいますが、若干の個体数増加が確認できているため、ベネビアODや気門封鎖剤を用いて防除を行っています。</p> <p>研究農場では、5月16日【第2回 サステナブル・グリーンハウス見学会】を開催します。バコトツプの放飼ハウスを見学できる機会となっておりますので、是非お越しください！</p>



豊かさ実る、タネを。
トヨタネ株式会社

研究農場 TEL (0532) 41-2007
 愛知県豊橋市東高田町371 FAX(0532)41-2015
 URL <https://www.toyotane.co.jp/>
 E-mail info@toyotane.co.jp